産業建設常任委員会　9月8日

進むか木材の成長産業化

「白鷹町森林（もり）とつながる暮らしビジョンの策定」について説明を受けた。

【計画策定の背景】
町はこれまで木造の公共施設整備を進め、県内の林業をけん引してきた。
森林資源の活用と循環を重視した現行計画を継承し、国や県の計画と連携しつつ、町独自の方向性や地域性を反映した計画とする。

【計画期間】
令和9年度から13年度までの5年間。

【策定の視点】
①持続可能性、多様性
②木材の成長産業化
③人材の確保と育成
④森林学習・木育の推進

質疑

産業化は進むか

横山委員　**素材生産量は目標を上回っているが、素材だけで産業化が進むのか。進捗を把握する指標を次期計画に入れるのか。**

当局　木材生産割合のほか川上から川下で目標を設定し、指標は状況に合わせ変更する。

木材乾燥施設の採算

山田委員　**木材乾燥施設は機能し、採算は取れているか。**

当局　事業者と連携し、※JAS製品の販売に動き出した。それらを積み重ね経営の健全化をはかっていく。

※JAS製品
日本農林規格に適合した製品

町民意識向上と参画

金田委員　**町民の意識向上や参画の取り組みを計画に盛り込むか。**

当局　多くの町民の意識を高めるため、広く広報活動に努める。



昭和63年以来の水道料金改定へ

「今後の水道事業」ついて説明を受けた。

【水道料金改定】
令和7年4月の浄水場事故や漏水対応、物価や人件費の上昇により、水道事業の経営環境は一段と厳しくなっている。
令和9年度以降は毎年2・5%の料金改定を基本に検討する。社会情勢の変化や広域化の議論を踏まえ、計画全体を評価し見直す。

【関連業務体制強化】
今後も町が責任を持って事業を進めるため、令和9年度から津島台浄水場の運転管理、検針、漏水修繕、水道料金徴収などを、水道技術管理者資格を持つ職員を配置することができる法人へ一括委託する方向で取り組む。

質疑

丁寧な説明が必要

横山委員　**毎年2・5%改定は令和6年度に示されたが、その後の経営状況や物価高騰を見込んでいるのか。料金を据え置いた場合の影響や、町民への丁寧な説明をどう進めるのか。**

当局　社会情勢の変化や広域化の検討状況を踏まえ、見直しと検証を進めながら丁寧に説明していきたい。

新法人で一元管理

金田委員　**水道技術管理者を配置できる法人とは、どのような事業者を想定しているのか。**

当局　水道技術を幅広く理解し、一元的な管理を任せられる法人を想定している。管路や施設をまとめて管理できるため、業務の効率化につながる。



その他
○令和8年度の除雪事業について
○白鷹町町営住宅等長寿命化計画の策定について
説明があった。